

生きてることが こんなに楽しいなんて

いま地域を考える

No.224

宮崎市の中心、若草通り商店街にあるビルの中に、指定障がい福祉サービス事業所手作りパン工房「はあ〜とパン」(とパン)、コーヒーやランチなどのお店「カフェふろーと」があります。(株)SHIBAはこれらの事業を運営し、心に病を持つ人たちが地域で自立して暮らしていくための支援を行っています。

(株)SHIBAの代表取締役の柴田裕介さん(グリーンコープ生協みやざき組合員)は、あたたかい笑顔の26歳の青年。設立当初から利用者として働き、今ではパン作りの中心的メンバーとなっている黒木香織さんと二人に話を聞きました。

※就労継続支援A型(雇用型)を利用し、職業訓練を受けている人



左から柴田さん、黒木さん

株式会社 SHIBA

指定障がい福祉サービス事業所



手作りパン工房 はあ〜とパン

カフェふろーと



23歳で会社を立ち上げる

福祉系の大学を卒業して地域生活支援センターでソーシャルワーカーとして働いていた柴田さん。センターを訪れる人たちの「働きたくても働く場所が無い」「二いつでも行ける居場所がほしい」という切実な声を聞いて、そうした場所を作ろうと思い立った。1年で仕事を辞め、県や市に就労継続支援A型(雇用型)事業所(以下、A型(雇用型))などを作りたいと相談をしたが、事業実績がないと認可は不可能という返事。そんな時、柴田さんが企業を立ち上げ、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を生かして心に病を持つ人の就労支援をする精神障がい者社会適応訓練事業を受託してみても、というアドバイスが保健所からあった。家族に話すと「やってみたら」と後押ししてくれた。

父親の所有するビルの一角を借り、2010年1月(株)SHIBAを設立

手作りパン工房「はあ〜とパン」がスタートした。

安心して安全な手作りパン

パン作りの講師などをしてきた義姉に指導を受け、利用者2人と、柴田さん、柴田さんの母親の4人で事業を始めた。安心して安全な

就労継続支援A型(雇用型)

一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供すると共に、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。利用者は事業所と雇用契約を結び最低賃金が保障される。(株)SHIBAでは、精神に障がいのある人を対象としている。

就労継続支援B型(非雇用型)

心身の状態、その他の事情で、A型等での雇用が困難な人などが、生産活動にかかる知識や能力の向上のために必要な訓練や支援を行う。



カフェふろーとパン工房と同じビルの3Fにある

楽しくイキキと

通常、パン屋さんは朝が早い。しかし、「はあ〜とパン」では、メンバーのみんながパン作りの全工程にかかわれるように、朝9時から、音楽を聴きながら楽しくパン作りを始める。器具も家庭用のものを使用して、その雰囲気やパンの味にも生き、家庭的なやさしい風合いが特長だ。配達

目標を持ってがんばる

「会社をスタートして1年3ヵ月余は、事業として成り立たせていくのはとても大変でした。もちろん母や僕は無給でした。安定した仕事ができるように利用者も僕たちも心を一つにして、パン作りに、販路の開拓にがんばりました。その結果、2011年1月、A型(雇用型)の認可を受

自分たちが食べたいと思えるパンを作ろうと、グリーンコープの強力小麦粉や奄美きびさとうなど材料にはとことんこだわった。「こういうパンを作ろうと思ったのは、僕が大学生の頃からグリーンコープの組合員だったからだと思っています」と柴田さん。2011年には、グリーンコープ生協みやざきの福祉活動組合員基金の助成を受け、発酵器などを買い入れパン工房の設備を充実することもできた。

「お客さんのほとんどは、ここが就労支援の場だとは知らないんじゃないかな。それはそれでいいと思って「います」と柴田さん。日々、パン工房とカフェで働くのは20人。働く時間や日数、パン作りや接客、調理の補助などは一人ひとりの希望に応じて対応する。登録をしているのは18〜62歳までの34〜35人、シフトを組んで働く。雇用期間の制限は無いが、これまで利用した人の半数が他の職場などに就職し、残りの半数が継続して働いている。

「長い間自分が病氣だっことを認められず、支援されることもいやで、死ぬことばかり考えてました。ここにきてみんなでいっしょに働き始めて、人とかかわりがだんだんできるようになりました。何よりパン作りが大好きなんです。パン生地は四季によって感触が違うんですよ。その感触のやさしさにとっても癒されるんです」。黒木さんは

「はじめは1年で、NPO法人に移行しようと思っていました。でも利用者は会社で働いているということにプライドと魅力を感じていることが分かって、税の優遇措置や助成などを受けられない点はあるけれど、(株)SHIBAでいいんだと気付かされました」。5月には就労支援事業B型(非雇用型)「SUNはあ〜と」(ビルなどの清掃作業を行う)を開設した。「利用者や指導員みんな、家族、何よりも地域の人に支えられて現在があると思います。地域の活性化にもっと貢献したいです」と語る笑顔の柴田さんだ。



手作りパン工房はあ〜とパンビルの4Fの住居スペースを活用している利用者一人ひとりがパン生地を作り、焼き上げ、包装するなどの作業を行う。1日150個のパンができる

が好評。昼食時には、近隣のオフィスなどから平均30人のお客が来る。調理の補助や接客業務など、利用者はイキイキと働いている。「お客さんのほとんどは、ここが就労支援の場だとは知らないんじゃないかな。それはそれでいいと思って「います」と柴田さん。日々、パン工房とカフェで働くのは20人。働く時間や日数、パン作りや接客、調理の補助などは一人ひとりの希望に応じて対応する。登録をしているのは18〜62歳までの34〜35人、シフトを組んで働く。雇用期間の制限は無いが、これまで利用した人の半数が他の職場などに就職し、残りの半数が継続して働いている。

「生きてるって、こんなに楽しいことなんだって、最近すごく感じます」と黒木さんは明るい笑顔で話す。「長い間自分が病氣だっことを認められず、支援されることもいやで、死ぬことばかり考えてました。ここにきてみんなでいっしょに働き始めて、人とかかわりがだんだんできるようになりました。何よりパン作りが大好きなんです。パン生地は四季によって感触が違うんですよ。その感触のやさしさにとっても癒されるんです」。黒木さんは

ここに通うようになって一人暮らしを始め、地域の人と交わるようになった。自分の居場所ができたこと、自分が必要とされていることが作業を通して実感できたのが、彼女を大きく支えたという。

株式会社である意味

「はじめは1年で、NPO法人に移行しようと思っていました。でも利用者は会社で働いているということにプライドと魅力を感じていることが分かって、税の優遇措置や助成などを受けられない点はあるけれど、(株)SHIBAでいいんだと気付かされました」。5月には就労支援事業B型(非雇用型)「SUNはあ〜と」(ビルなどの清掃作業を行う)を開設した。「利用者や指導員みんな、家族、何よりも地域の人に支えられて現在があると思います。地域の活性化にもっと貢献したいです」と語る笑顔の柴田さんだ。

2012年4月の組合員数 385476人 (4/20現在)

リユースリサイクルデータ 2012年3月分 リユースびん 回収本数 202,760本 回収率 85.2% モールドバック 回収重量 30,870kg 回収率 89.4%	牛乳びん 回収本数 668,862本 回収率 99.9% (2月19日~3月17日回収分) トレー 回収重量 8,871kg 回収率 49.9% 仕分け袋 回収重量 1,882kg 回収率 11.1%	フードマイレージ 2009年9月から2012年4月までに組合員の利用によってたまったのは 170,623,405.8 CO ₂ に換算して17,062トン削減したことになります	アジア民衆基金 2009年4月から2012年4月までに組合員の利用によってたまったのは 22,807,373円
--	--	--	---